

WUB Tokyo NEWS

No. 14 2015.5.15

発行 / WUB 東京 広報委員会

発行責任者 / 今井 恒子

WUB 東京 連絡先

〒154-0001 東京都世田谷区池尻4-38-8-401

昭和生化学株式会社 内

FAX 020-4623-5326

URL <http://wubtokyo.com>

E-mail mail@wubtokyo.com



INDEX — WUB東京 南米ツアー旅行記 —

- WUB NW 会長就任のごあいさつ — 東 良和
- WUB東京会長を引き受けてから — 就任二年目を迎えるにあたり — 今井恒子
- ボリビア国・ペルー国を訪問して — 長嶺爲泰
- WUB東京 南米ツアー旅行記「ボリビア移民60周年記念式典 及び WUB世界大会 in ペルー参加の旅」 — 飯田康史
- WUB ネットワーク理事会にて「沖縄“平和経済”宣言」を採択
- 「旬」の県産品消費拡大構築事業“島いるマルシェ” — 屋良朝男
- WUB東京 フラッシュバック(14年5月~15年4月)
- 情報発信掲示板 — 新入会員紹介/お知らせ/編集後記

WUBネットワーク 会長就任のごあいさつ

WUBネットワーク 会長 東 良和
(沖縄ツーリスト株式会社 会長 & CEO)

Haisai Gusuuyo, Chu-uganabira!

今年からWUB ネットワークの会長をつとめます東 良和(ひがし よしかず)です。初めての方の為、自己紹介をさせていただきます。



長嶺第5代会長より「えーく」を受け継ぎ挨拶する東第6代会長

1960年那覇市生まれ。父は石垣島大浜出身(元々は東盛という名前で、戦後に改姓したそうです)、母は首里の生まれ(旧姓 仲田)です。父・良恒(1999年他界)は沖縄ツーリストの創業者で我が社の初代の社長です。1958年の創業から現在に至るまで我が社は国内外のウチナンチュに本当にお世話になってきました。東京支店も1966年の開設で、父の親戚でもあったペルーの金城旅行社にも支援をいただいたと聞いています。一方、母は今も健在で、1993年にハワイで開催された第1回世界のウチナンチュ会議 & WUB世界大会に参加し、すっかりWUB世界大会のとりこになり、ブラジル、アルゼンチン、ペルーなどで皆さんの仲間に入れていただきました。

私自身は、小学校6年生の時に本土復帰を経験し「内地」に憧れ、親の反対を押し切って熊本マリスト学園中学・高校に進みました。しかし、九州では本州のことを「内地」と呼んでいましたのでショックでした(笑)。東京で大学を卒業した後、日本航空に入社し大阪、成田、羽田と勤務しました。こう見えても、アシスタントパーサーとして成田を拠点に国際線に乗務したこともあります。その後、コーネル大学ホテルスクール大学院に留学し、1990年から東京支店を皮切りに沖縄ツ

リストで勤務し現在に至っています。

正式にWUB沖縄に入会したのは2001年頃、それ以前もペルーやブラジルには行ったことがありましたが、WUBに入ればもっと大好きな南米に行けるという邪な気持ちもありました。それ以来、WUBという組織を通して、国内外の多くの仲間たちとネットワークを築けたことは、本当に人生の宝モノだと感謝しています。



昨年のWUBネットワーク・ペルーでの理事会では『沖縄“平和経済”宣言』が採択されました。1899年の沖縄初の契約移民30人がハワイに向け那覇港をたつて以来、現在では40万人以上もの沖縄県系人が世界で活躍しているといわれています。言葉では言い尽くせないような過酷な環境の下、時には家族や仲間の生命まで奪われる災害をも経験しながら、現在の確固たる地位を築かれてきた先達の皆様に心から敬意を表します。その上、沖縄県系人はその土地に根付き、例えば自分が差別をされても、自らは他人を差別することなく、移住先の国の方々と仲良く平和に暮らしてきたことを本当に誇りに感じます。そのベースがあってはじめて現在のWUBが存在していると考えます。

WUBネットワーク(当時はWUBインターナショナル)の創設者で初代会長のロバート仲宗根氏(ハワイ)、呉屋守将 第2代会長(沖縄)、与那嶺真次 第3代会長(ブラジル)、牧志泰三 第4代会長(沖縄)、長嶺爲泰 第5代会長(ボリビア移



盛大に開催された第18回 WUB世界大会、第3回世界のウチナンチュ会議

民第1陣、東京)の輝かしい実績と素晴らしい人柄を汚すことのないよう精一杯、会長職を全うしていきたいと考えております。まだまだ若輩もので力不足ですが、東京をはじめ世界中のWUB会員の皆様のご指導ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。就任の挨拶とさせていただきます。

尚、WUBネットワーク事務局長は引き続き国吉真理子さんに懇願しご快諾をいただきました。

WUBの力で、世界中の全ての人々が幸せになれるような経済活動を広げて行きましょう!

Ippee Niffee Deebitan!

WUB東京会長を引き受けてから ― 就任二年目を迎えるにあたり

WUB東京 会長 今井 恒子

昨年5月22日のWUB東京の総会で会長を引き受けてからあつと言う間に一年が経ち、二年目を迎えることとなりました。2013年の夏に前会長の小畑耕行さんがお亡くなりになり、その後任を引き受ける形での会長就任でしたが、当初はこの



2008年のブラジルでの世界大会にて

ような大役を務めることが出来るのかと不安もありました。何故ならば2008年に開催されたブラジルでのWUB世界大会に参加させて頂いたのがきっかけでWUBに入会し、WUBに入会すれば海外旅行に行けるとの単純な想いだけで、「旅行会員です」と胸を張っていたからです。つまり、WUBの創立経緯も知らず、世界中にウチナンチュが移住していたこともまったく知らなかった私が数年後に「WUB東京」の会長を引き受けることになるとは夢にも思っていませんでした。

1997年、ハワイにて「世界ウチナンチュ・ビジネス・ネットワーク会議」が開催されたのを契機にWUB創設者ロバート仲宗根氏が提唱しWUBが発足されたこと。WUBのネットワークは日本、南米、北米、ハワイ、アジア、欧州など二十一支部あり、いまだに世界各地域で「WUB世界大会」が継続的に開催されていること。WUB活動を知るにつけ、国際的な大会が開催されるネットワークを持つのは日本全国でも沖縄県だけではないのかと改めて世界に広がるウチナンチュ、WUBの存在をを誇らしく思うようになりました。

昨年8月にはバレーでのWUB世界大会やボリビアでのコロニア・オキナワ入植60周年記念式典にも参加致しました。リマ市の県人会館で開催された第18回WUB世界大会と第3回世界のウチナンチュ会議には約200人のWUB会員が参加、沖縄県からは高良倉吉副知事も参加されパネルディスカッションやシンポジウム、ビジネス交流会も行われ大盛會となりました。大会では

WUBネットワーク会長の長嶺爲泰氏の後任にWUB沖縄顧問の東良和氏が選任され我がWUB東京・長嶺名誉会長も3年間の任務を無事終え、少しほっとしたような笑顔が忘れられません。



マイアミ空港内のレストランにて親睦会

ような大役を務めることが出来るのかと不安もありました。何故ならば2008年に開催されたブラジルでのWUB世界大会に参加させて頂いたのがきっかけで



ニューヨーク JFK空港にてトランジット中に記念撮影

あと一つ、特記すべきはWUBネットワークが提言した『沖縄“平和経済”宣言』が採択されたことです。この宣言文についてはボリビアのホテルロビーで深夜まで各支部会長が集い一文、一文を丁寧に審議し、WUBネットワーク 国吉真理子事務局長やWUB沖縄 喜屋武尚事務局長が英文翻訳に尽力してくれました。この時のWUBの結束力と一体感は忘れられない思い出となり、このような記念すべき節目にWUB東京会長として参加できたことは光栄なことだと思いました。

さて、二年目を迎えるにあたり「WUB東京」らしさをもっとアピール出来ないかと考えております。国内外のWUB支部会の皆様が上京するのに合わせての親睦交流のみならず、ミニ講演会や江戸の町についての勉強会やWUBの歴史についての勉強会などを共に出来ないかと思っておりますし、また世界

に誇れるWUBの活動を多くの方に知ってもらいたいとの思いもあります。

私自身も沖縄出身にもかかわらずWUBの存在さえ知りませんでした。在京ウチナンチュのみならず沖縄でお会いするウチナンチュの中にも「WUB」のことを知らない方が多くいらっしゃいます。「ハブは知っているけどワブは知らないんですね～」と冗談交じりにWUBの名刺を差し出すこともあります。WUBを知ってもらうことは、沖縄の移民の歴史を知ってもらうことでもあり世界に散らばっているウチナンチュが、文化やビジネスや人的ネットワークを大事にし、その絆を保ち続けているからこそ誕生したのだという事も知って頂きたいと思っています。

いろいろ思いは膨らみますが、二年目を迎えるにあたりいつも支えて下さっているWUB東京の素晴らしい仲間・理事の皆さまや会員の皆さまと共に楽しみながら「えーく(權)」を漕いで行きたいと思っております。今年度もどうぞ宜しくお願い申し上げます。



ボリヴィア国・ペルー国を訪問して

WUB東京 名誉会長 長嶺爲泰

昨年8月17日に開催されたボリヴィア沖縄移民60周年記念式典並びにリマ(ペルー)で19日～20日に開催された第18回WUB世界大会・第3回世界のウチナンチュ会議に参加したことは、私自身の歩んできた人生とも重なり、とても感銘深い思い出となった。

歴史を辿れば故郷沖縄は貧しい島で、人々は夢と希望を持ち、豊かさを求めて海外に出かけた。資料によると沖縄移民の初期は、1899年のハワイを皮切りに、1904年にマニラ(フィリッピン)及びメキシコ、1905年にニューカレドニア、1906年にペルー(一部ボリヴィアへ転住)、1907年にカナダ、1908年にブラジル(一部アルゼンチン

へ転住)、1922年にサイパン、1924年にキューバとなっている。

その次の段階は第2次世界大戦後となるが、戦争により廃墟となった沖縄は海外在住のアメリカ



WUB ボリヴィアメンバー主催の歓迎夕食会にて

カを中心に南米諸国の県出身者の皆さんから金銭・物資の援助を受け、大いに助けられた。その中でボリヴィアへの移住計画は、1948年、戦前にペルー国から転住したオキナワ移民によって、廃墟と化した沖縄の同胞を救済するために作られた。オキナワ移民たちは「うるま農産業組合」を結成、ボリヴィア政府より移住受入れ許可を得て、サンタクルース県にて土地の選択・取得、移住地を決定した。沖縄から戦後初めての、そして唯一の行政移民として募集400名に対し応募者4,000名があり、新天地を求めて1954年6月19日、第1次移民団106戸、269名が旅立った。私もその一員としてオランダ船で那覇軍港を出航、香港経由、インド洋を南下、南大西洋を横断して南米ブラジルのサントス港へ8月6日に到着、49日の航海を無事終えた。サントス港から国境のコロンバまで約800キロ、特別契約のディーゼル機関車に客車と貨物車を連結した快適な旅であったが、ボリヴィア国に入ると蒸気機関車に替わりサンタ・クルースまでの約600キロは、一転して大変な旅となった。機関車の後ろに繋がれた我々が乗る客車には、風の向きによって、隙間や開いている扉・窓から機関車の火の粉が入ってきて、衣服が焼けたり、火傷をしたりで休まる時がなかった。8月14日早朝、8日間の長い汽車の旅が終わり、入植地まで約32kmの原始林の生い茂った奥地“うるま移住地”に入植し、8月15日沖縄出発から約2ヵ月に渡る長い旅路を終えた。1ヵ月後の9月14日には第2次移民団、45世帯127名も入植。琉球政府が集団で送り出した1954年の第1次移民団から1964年の第19次移民団までに683世帯、延べ3,232人がボリヴィアへ計画移民として入植した。入植時は受入宿舎3棟の内、1棟の屋根は完成していたが、別の棟は柱だけで屋根もない状態であった。完成している長屋に入居できた人たちは少し良かったが、柱だけの長屋に入った人たちは星空を眺めながらの夜を過ごした事も今では貴重な思い出となっている。

当時は、ジャングルの中に放り込まれ、住居も、食料も、水も不足しているという過酷な環境の中で、新天地での理想郷を築く夢と希望を抱き、集団生活をしながら原生林の開拓に情熱を注いだ。ところが入植2ヵ月後に移住者の一人が原因不明の熱病(うるま病)で死亡、12月に3名、1月に3名、2月に3名、4月に5名と入植後僅か6ヵ月の間に15名もの尊い命が奪われ、移住地はパニックに陥った。私もこの病にかかったが、九死に一生を得て、幸いにも生かされた事に感謝した。病気、水害等の



苦闘から逃れるように緊急避難地パロメエテリリアに移転、生活が落ち着いた一年後に現在のコロニア・オキナワへ三度目の転住、ようやく永住地を得た。

世界の地図上にもう一つの“OKINAWA”を築いた今日のコロニア・オキナワの発展は、原始林を自力で開拓し、度重なる干ばつや水害といった自然災害を乗り越えてきた、筆では語ることのできない移住者たちの努力の積み重ねの賜物である。60周年記念式典に参加して移住地にて頑張ってこられた皆さんに心からご苦労

様でした、お疲れ様でしたと賞賛したい。

WUBは1997年の創設以来、ハワイを始め、北米、ブラジル、アルゼンチン、ペルー、ボリヴィアなど、移住者たちの努力で築かれたウチナンチュ社会を中心に世界各地にて集いを開催して来た。私もほとんどの集いに参加してきたが、このようなことが出来るようになったのも、沖縄移民の父と呼ばれる當山久三の名言「いざ行かん、我らの家は五大州」の様に、一世紀前にこれらの国々へ生活の豊かさを求めて移住した諸先輩の皆さん(初期に奴隷並のハワイでの契約移民のプランテーション(サトウキビ畑)労働、ブラジルでのコーヒー農園労働、ペルーでのチャクラ(農地)労働や第2次世界大戦で敵対国者として長い年月で築いた財産の強制没収、ブラジルやペルーでの日本人・沖縄出身者同士の戦後の“勝ち組・負け組”間の悲惨な争い等)の限りないご苦労と努力の賜物だった

のだな、と実感できている事が貴重な体験である。

今回のWUB世界大会・世界のウチナンチュ会議はペルーのWUB組織と沖縄県人会のウチナンチュ魂の絆と協力により、故郷沖縄を始め、日本国内、



サンマイパータ遺跡への途中にて

世界各国からイチャリバチョーデー精神でウチナンチュが集い、お互いの絆と親睦を深めることができた。また、長年続けてきたWUBの集いの結集として『沖縄“平和経済”宣言』を発表できた事は、世界レベルでのウチナンチュの集いが成功した証で、この上ない喜びであり、今後の世界的なウチナンチュ組織の発展を楽しみにさせてくれる出来事であった。

WUB東京 南米ツアー旅行記 「ボリビア移民60周年記念式典 及び WUB世界大会inペルー参加の旅」

WUB東京 理事 飯田 康史

訪問国：ボリビア・ペルー
 日程：2014年8月14日～年8月25日
 参加人数：12名+添乗員

●1日目 8月14日(木)

成田空港第2ターミナルに午前9：10 集合。いよいよ12日間の南米旅行に出発です。11：10 発 JAL006 便にてニューヨーク JFK 空港へ。JFK 空港でマイアミ行まで3時間15分の乗継時間でしたが、入国審査が到着便ラッシュで予想以上の大混雑。アメリカン航空への乗継がギリギリでした。(汗)マイアミ空港では乗継に時間があり、参加者全員で空港内のレストランで懇親食事をしました。その後 23：55 発のラン航空で南米ペルー・リマへ出発。

●2日目 8月15日(金)

リマから乗継、ラン航空でサンタクルスへ。直行便と思いきや途中ラパス空港経由でした。ラパス空港は標高4,000メートルを越す位置にある世界最高標高の国際空港。ラパス空港到着後に機内ドアが開いた瞬間皆の気分が悪くなり、軽い高山病の症状が出たほどです。(長旅の疲れもあり、ホント辛かったです…。)



3回の乗継を経ましてようやくボリビア・サンタクルス空港に無事到着！ 空港では大歓迎を受けました。送迎車にて市内ホテルコルテッツに到着。夜は WUB ボリビア主催の夕食歓迎会を受けました。

●3日目 8月16日(土)

長旅の疲れもありましたが、サンタクルスでは外せないサマイパタ遺跡へ朝から出発。爽やかで快晴の天候にも恵まれ、スケールの大きな景色を車窓から楽しみました。道中バスが止まると多くの売り子が窓に近づいてきます。山岳地域に入っていくと、道中の道も悪く、車で川も渡りました。サマイパタ遺跡は何かエネルギーを強く感じる神秘的のパワースポット、みなさん熱心

にガイドさんの話聞き入り予定見学時間を大幅に延長してしまいました。かなり遅めの昼食はサマイパタ近くの村で有名なレ



ストランのピザを堪能しました。ホント美味しかったです。夜はサンタクルス市内のレストランで少し軽めの夕食。ここで、WUB 沖縄と交流しました。

●4日目 8月17日(日)

今日はコロニアオキナワ入植60周年記念式典と慰霊祭に参加するため、朝7時にホテルを出発、約1時間の移動でコロニアオキナワへ到着。沖縄文化会館・オキナワボリビア歴史資料館を見学、慰霊祭にも参加しました。会場は満員ですごい熱気に包まれていました。ここは気温も高く凄く暑かった。



式典終了後は知花さんのご親戚の農場・牧場を見学させてもらい現地の方の生活感を知る上で大変貴重な体験をさせていただきました。



●5日目 8月18日(月)

サンタクルス最終日は観光チームとショッピングチームに分かれての行動です。私はショッピング組の添乗員として皆様と一緒に市内を散策しました。途



中、青空の見えるお洒落なレストランでボリビア最後のランチを楽しみました。サンタクルスのビー

ルは本当に美味しかった!!

観光組と空港で合流後、夕方便でサンタクルスに別れを告げ空路リマに向かいました。リマは想像以上に大都市(南米五大都市の一つだそうです)。宿泊するスイスホテルは超豪華5つ星のホテル! 久しぶりにNHKを見る事ができて嬉しかったです。

●6日目 8月19日(火)

WUB世界大会参加組と観光組に別れて行動します。



観光組はリマ市内観光(ラファエル・ラルコ・エレラ博物館、大統領官邸、サンフランシスコ教会)など見学の後、海に突き出



店のセビーチェ(魚介類のマリネ)は最高でした! リマ市内は歴史的建造物が



る人気レストラン「ラ・ロサ・ナウティカ」の近海で取れた新鮮な魚介類を堪能しました。このお



多く見ごたえ十分です。夜はWUB世界大会参加組に合流し、交流パーティーに参加し楽しく盛り上がる夜になりました。

●7日目 8月20日(水)

この日も「第3回世界のウチナーンチュ会議」参加組と観光組に別れて行動。

私は添乗員として観光組に参加、リマ市内より世界一長い高速道路。北米カナダから南米アルゼンチンまでを走るパンアメリカンハイウェイの一部を通り、パチャカマック遺跡を見学、その後黄金博物館と海辺のミラフローレンス地区でのバイキングランチ、



ショッピングを楽しみました。

夜はベルー沖縄県人会館で「世界のウチナーンチュ会議」参加組に合流し懇親を深めました。

●8日目 8月21日(木)

リマから空路クスコへ移動。アンデス山脈の標高3,400メートルにある高山都市になります。当日は天気も快晴で赤土の山々とクスコの街



並みがとてもきれいで、アルマス広場の大聖堂や石畳の街並み、サントドミンゴ教会、サクサイワマン遺跡を見学後、マチュピチュに向かう都市ウルバンパでコテージ風のリゾートホテルに泊まりました。

●9日目 8月22日(金)

いよいよ、待ちに待ったマチュピチュ観光の日。快晴で天候にも恵まれました。オランティタンボ駅から テレビ「世界の車窓から」に出てくるような列車の世界へ。列車ビスタドーム号の



車内は世界各国の人々でにぎわっており、素晴らしい景色と車内でのファッションショーや軽食など楽しみました。マチュピチュ

駅からバスで山道に登って行くといよいよ世界遺産マチュピチュへ到着。神秘的で目にした時の感動は今でも忘れる事ができません。



マチュピチュを十二分に満喫した後はクスコまで戻り、素敵なお宿「パラシオデルインカ ラグジュアリーコレクション」に宿泊し南米最後の夕食を楽しみました。

●10・11・12日目 8月23日~25日(土・日・月)

最終日は出発までアルマス広場でショッピングと自由行動。たくさんのお土産を手に、ランチの後クスコ空港へ向かいました。

リマ空港からロサンゼルス乗継を経て日本に帰国。長いながい12日間の旅を終えました。



最後に皆様で撮りました記念写真でツアー報告のメとさせていただきます。ありがとうございました。

WUBネットワーク理事会にて 『沖縄“平和経済”宣言』を採択

2014年8月19日、リマ市（ペルー）で開催された WUB ネットワークの理事会において、『沖縄“平和経済”宣言』が採択されました。WUB ネットワークのホームページにも掲載はされていますが、あらためてここにも全文を掲載しておきます。ぜひ、ご一読ください。



WUBネットワーク 理事会の様



WORLDWIDE UCHINANCHU BUSINESS ASSOCIATION

2014年8月19日

沖縄“平和経済”宣言

<背景>

沖縄はかつて琉球王国時代に、中国やアジア諸国との架け橋となる貿易「万国津梁」を謳い、平和的外交を重んじ、人や物の集まる国際都市として活躍する時代がありました。その精神は、今から遡ること一世紀余り、新天地を求め海外に雄飛し、それぞれの土地において確固たる地位を築いてきた我々ウチナーンチュの先人達へ脈々と受け継がれています。

しかし 69 年前、彼らの遠い故郷沖縄は、惨たんたる戦禍に見舞われ多くの県民が肉親を失い、悲しみと失望の底に突き落とされました。その時、救済に立ち上がった人たちこそ、ハワイ、南北アメリカ大陸など、海外で暮らす県系人同胞たちでした。彼らの故郷を思う郷土愛を私たちは決して忘れることはありません。同時に悲惨な戦争体験と平和の尊さを肌身で感じ、悲劇を再び繰り返すことのないよう、平和な国際社会の実現を希求していかねばなりません。

国や地域における力のみによる解決手法は、これまで結ばれていた絆を分断し、格差や争いを生み出す要因ともなりえます。私たち WUB（ワールドワイド・ウチナーンチュ・ビジネス・アソシエーション）は県系人による国際レベルの経済、情報および文化の交流をおもな事業とし、世界各国の支部とネットワークを結んでいます。世界的な経済交流やネットワークを結ぶには、平和な国際環境が不可欠であり、そのためにはグローバルな経済活動に置いて、ウチナーンチュのチムグルル、ユイマールの精神が極めて有用であると考えます。

沖縄から世界へ “平和経済” の発展を願う 宣言文

WUB（ワールドワイド・ウチナーンチュ・ビジネス・アソシエーション）は、

1. 世界各地のウチナーンチュのビジネスパーソンが連携し、国際的ネットワークの構築とビジネス活動を促進させ、それぞれの国や地域の経済発展を目的に活動を担う。
2. 沖縄に脈々と受け継がれている「いちゃりばちょーでー（一度会えば皆兄弟）」の精神を再確認し、そして互いの文化、考え方を尊重し、差別や貧困のない多文化共生社会の実現を希求する。
3. すぐれたソフトパワーである世界のウチナーンチュネットワークを活用し、国際的な経済・文化・人的交流を更に発展させ、世界各国、各地域の“平和経済”の実現に向けて努力することを使命とする。

「旬」の県産品消費拡大構築事業「島いろマルシェ」

WUB東京 理事 屋良 朝男

会員の皆様、御無沙汰をいたしております。東京を離れ約10年、WUB東京の「やんばるクイナ」的な存在で、なかなか、お目にかかる機会をつくれなくて、恐縮をしながら原稿作成いたしております。

それでは、私の近況ですが、沖縄らしい特徴的な業務をご案内いたします。

沖縄県の事業で『「旬」の県産品消費拡大構築事業』を受託いたしまして、その一環の業務で県内各地を移動しながら、来県する観光客に対し、沖縄県産の食材や加工商品などを直接的に触れて頂き消費拡大を図ることを目的とした「島いろマルシェ」というイベントの企画運営の担当をいたしております。

来県する観光客の頻度、リピート率が高い状況下で沖縄観光のマンネリ化が懸念されますが、これを払拭するため、食にターゲットを絞り、地域性や季節性、希少性に富む、出店者や商品を揃えて、県内の観光客が多く訪れる施設とタイアップし、県内各地を移動しながら開催いたしております。そのため、出店調整や商品の発掘選定といった商品バイヤー的な困難を極める高い調整もあり、生みの苦しみもありますが、出店者と観光客が触れ合い、楽しそうな笑顔を目にすると、私も少しは沖縄のために役立っているような気がしています。



沖縄県「旬」県産品消費拡大構築事業
<http://okinawa-syun.jp>

沖縄 旬のごちそう

検索



島いろマルシェのロゴコンセプト
 ・島のいろんなもの
 ・四季ごとの色
 ・カラフルないろんな色のビジュアル



わしたショップ本店（国際通り店）



海洋博公園 美ら海水族館



JAファーマーズ食菜館 菜々色畑



那覇市てんぶす館



おんなの駅なかゆくい市場



2014年(5月)22日/WUB東京総会開催。今井理事



が新会長に就任。今井会長からは、WUBへ寄せる思いやペルー大会への意気込みが語られました。パワフルな今井会長と一緒に会を盛り上げて行きましょう!

25日/川崎沖縄県人会 発足90周年記念大会へ参加。

《6月》24日/WUB世界大会ツアー説明会、沖縄ツーリスト浜松町オフィスにて。

《8月》17日/ポリビア コロニア・オキナワ入植60周年記念式典参加。先駆者の苦勞を知るとともに新たな交流を深めました。現地での知花さんの温かい歓迎に感謝!



19~20日/第18回WUB世界大会 in ペルー開催。東京からは11名、約250名以上が参加し盛大な大会となりました。大会の中で沖縄「平和経済」宣言」を採択し、経済、教育、沖縄ネットワーク等幅広いテーマでディスカッションを行いました。会場はリマ市沖



WUB東京 フラッシュバック (14年5月~15年4月)

縄県人会館。WUBペルーの高原会長、赤嶺顧問の心のごもった会議運営に感謝!

29日/恒例のお座敷列車。今回事情により急きょ日程が変更になりましたが、約30名参加し楽しいツアーに



なりました。

《9月》13日/琉球ゴールデンキングス応援観戦、大田区総合体育館にて。

《11月》22日/第18回WUB世界大会 in ペルーの報告会、浜松町沖縄ツー



リストオフィスにて。

《12月》10日/WUB東京&関東沖縄IT協議会の合同忘年会。



2015年(3月)21日/ポリビアからの知花さん歓迎会&ペルー・ポリビア参加の懇親会、仲宮里にて。

■新入会員紹介

●長濱 瑞江さん WUB東京の皆様 こんにちは!株式会社アイディーズで取締役を務めます長濱と申します。弊社は沖縄に本社を置き、スーパーのPOSデータをお預かりし、データの販促への活用やマーケティング、コンサル等が主な業務です。今では全国屈指のビッグデータの取扱をするようになり、データの標準化にも取り組んでいます。全国のデータの標準化をぜひ沖縄の会社で実現させたいです!現在横浜市東支店勤務です。WUB東京参加の際は、気軽にお声かけ頂ければ幸いです。



情報発信 掲示板

を頂き、会員になれたことに感謝しております。どうぞよろしくお願ひします。にふえーで一びる!

●端山 浩幸さん (株)ワース・テクノロジーにてWebのサイト開発やサービスをしています。親が糸満出身で私はコザ市生まれのコザ育ちです。



WUBに入会してびっくりしたのは私の祖父の弟(大叔父)を長嶺WUB東京名誉会長がご存知だったことです。大叔父は子供の頃にたまに会っただけで直ぐに東京に行ってしまったので良くは知らないのですがこうやって繋がりが出来た事に非常に感銘をうけ且つ沖縄の繋がりの強さに改めて素晴らしいと感じました。これから皆様と楽しく交流できればと思っておりますので、今後共宜しくお願ひします。

■お知らせ



●美崎太洋さん個展のご案内

本年度で第21回目を迎える美崎さんの個展が以下の通り開催されます。・会期:2015年7月20(月・海の日)~26日(日) PM12:00~PM6:30(最終日PM5:00まで)・会場:銀座アートスペース 〒104-0061 東京都中央区銀座6-3-2 ギャラリーセンタービル4F TEL.03-3573-1271



■編集後記

本誌の編集をしている5月初旬の東京は、五月晴れで気持ちの良い天気です。青空を見ていると沖縄を思い出し、湿気を含んだ風やジリジリと照りつける太陽を味わいに帰りたくなります。タイミングが合わなくて、なかなか帰れないときは「えーく」を読んで沖縄の心を感じることにします!今号も執筆者、編集委員の皆さんに感謝!(永大)



会員の皆様からの近況報告やイベントや商品等の告知、ご意見等をお待ちいたしております。どしどしお寄せください。



●島田 祐子さん はじめまして。那覇市出身の島田(旧姓:長嶺)祐子と申します。2012年まで沖縄県東京事務所のIT企業誘致担当推進役を務めた後、沖縄へのUIターン希望者と沖縄県内企業とのマッチングを手がけるべく、合同会社ベネサウラを設立しました。東京にしながら、沖縄に貢献していきたいと思っています。今後、WUB東京の皆様より色々と刺激を受け、ご指導を賜われますことを楽しみにしております。よろしくお願ひ致します。

●石川 恒友さん 皆さん、初めまして。沖縄県うるま市出身で人生の半分をナイチで過ごしております。昨年2014年には那覇から転勤となり25年ぶりの関東生活となりましてWUB東京に出会いました。国土交通省航空局で航空管制システム関連の仕事をしておりまして沖縄関連の交流の機会をいただきうれしく思います。今後ともよろしくお願ひします。



●橋 克枝さん WUBのみなさん こんにちは!私は、沖縄生まれ、沖縄育ち(7人きょうだい)です。ウチナーンチュであることに誇りを持ち、「明るく!元気に!前向きに!」をモットーに日々精進しています。現在、映画WEB広告代理店で、経理・総務の仕事をしています。若いスタッフに囲まれ顔晴っています。WUBにご縁